

三小タイムズ

令和3年3月22日発行 校長 辻 久恵

全校朝会の話

皆さん、おはようございます。

最近のきらりを紹介します。

一つ目は、6年生が開いてくれた「ニュースポーツお披露目会」で、みんなで運動を楽しむことができたことです。6年生は、大学院の方々とオンラインで話し合いながら、グループごとにニュースポーツを創り出してくれました。そして、時間を決めて皆さんと一緒に運動する機会を設けてくれました。6年生の皆さん、ありがとうございました。

二つ目は、保健委員会の皆さんが「手洗いの放送」を流してくれていることです。

休み時間が終わって教室に入る時、給食の前等のタイミングで毎回手洗いの放送を流してくれるので、みんなが正しい手洗いを頑張ろうという気持ちになります。

三つ目は、かなり前のことになりますが、たくさんの人が健全新聞に応募したことです。地域の方々が、コロナで地域の行事ができないので、何か子どもたちのためにできないかと考えて、新聞コンクールを開催してくださいました。たくさんの応募があって地域の皆さんも喜んでいらっしゃいました。

さて、今日は「立つ鳥跡を濁さず」について話します。

聞いたことがあるでしょう。

この時期になると、冬の間、日本で暮らしていた渡り鳥もだんだん故郷へ帰っていきます。たくさんの渡り鳥が飛び立つ風景はとても迫力があります。皆さんもテレビなどで見たことがあると思います。

たくさんの渡り鳥が湖から飛び立っても湖の水はあまり濁りません。きっと鳥たちがきれいに飛び立っていくからだと思います。

そのような光景を見て、昔の人が作ったことわざが「飛ぶ鳥跡を濁さず」です。

昔の人は、なぜこのようなことわざを考えたのでしょうか。きっと、自分の世話になったところを出ていくときにきれいなままで去っていく渡り鳥の姿に感動したからだと思います。

まもなく今の教室を出ていく皆さんは、渡り鳥に似ています。クラスのお友達と一緒に勉強した教室、一緒に給食を食べた教室、このように使い慣れた教室、机やイス、黒板ともお別れです。

1年間お世話になった教室を、今度は次の学年の人たちが使います。どうか、きれいにして、引き継いでください。校長先生の好きな言葉に「使う前より美しく」があります。もう一度言います。「使う前より美しく」どうぞ、がんばってください。

皆さん一人一人が「立つ鳥跡を濁さず」の言葉をかみしめて残りの日々を過ごしたら、4月からその教室を使う人たちは、きっと3月まで生活していた皆さんに「ありがとう」の気持ちをもつことと思います。

緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ予断が許されない状況です。今週もマスク着用、正しい手洗い、三密回避を守って、コロナにはくれぐれも気を付けて、修了式、卒業式まで頑張りましょう。